



学生の 成長力 No.

HOKURIKU UNIVERSITY

— 成長力 No.1 BOOK 2025 vol.01 —



あなたは何度も 変身できる。

学生の
成長力
No.1
HOKURIKU UNIVERSITY

Before

After

世の中が 変わったって かまわない。

「どうせ無理」が
口癖

社会の変化？時代の進化？ノープロブレム。自己成長力があれば生き抜ける。自分の頭で考える。自分の心を表現する。このチカラさえあれば、どんな未来になっても自力で成長できる。「北陸大学ってどんな大学？」と聞かれたら、そういう自己成長力を育みたい。成長力を身につけた学生は、在学中にだってみるみる変身する。1年次と2年次で見違えた人がある。入学時と卒業時で大化けした人もいる。一人ひとりの成長度を測るモノサシがあるなら、きっと、北陸大学はナンバーワン。そう宣言できるだけのフィールドがここにはある。

美容業界の
リーディングカンパニー



一匹狼だった自分が、
警察官になる。
人と支え合うことで
大きな成果を生む。
そんな人間になれたから。

周りと関わるのが苦手で、何でも一人でやろうとしていた。でもゼミでのディスカッションを通じて、仲間と意見を交わし、協力することで大きな成果を生み出せると気づきました。自分の考えを伝え、相手を尊重する力がついたおかげで、人と支え合うことが自分の強みになった。これからは警察官として、その力を生かしていきたいです。

経済経営学部 マネジメント学科
中西 開斗
出身高校／金沢高等学校

石川県警察



「どうせ無理」
と思っていた私が、
人との関わりの中で
「私はできる」
という自信をつかんだ。

高校時代は「どうせ無理」と決めつけてばかりでした。でも、オープンキャンパスのスタッフとして多くの人と関わるうちに自分の意思を伝える大切さを感じました。ゼミのディスカッションでは意見することの楽しさを知りました。小さな行動の積み重ねが、いつしか「私はできる」という自信に変わったんです。いまはすべてにおいて前向きです。

経済経営学部 マネジメント学科
近藤 美悠
出身高校／金沢高等学校

SBCメディカルグループホールディングス



200人を相手に
プレゼン成功。
大きな達成感を得て、
人前でも動じない
自分に成長できた。

高校時代はとにかく人前で話すのが苦手でした。でも、オープンキャンパスのスタッフとして活動して、多くの人とコミュニケーションをとるうちに「伝えること」の楽しさに気づきました。200人の前でプレゼンを成功させたとき、緊張よりも達成感が勝った経験が大きかったです。いまでは自分の言葉で相手に伝え、行動を促すことができます。

経済経営学部 マネジメント学科
平西 巧空
出身高校／金沢龍谷高等学校

警視庁



意見しないことが
最善じゃない。
相手の考えと
自分の考えを
融合する力を得た。

意見がないわけじゃない。でも、意見を言って揉めるのはイヤ。高校時代はそんな自分でしたが、大学での学びが自分を変えました。教員や職員の方と話す機会が増えたり、SA(スチューデント・アシスタント)活動を経験する中で、意見することが怖くなりました。意見を言わないことが最善ではない。そのことを知ったのは将来の大きな財産です。

経済経営学部 マネジメント学科
石川 里奈
出身高校／遊学館高等学校

コマニー株式会社

問題解決力が
ぐんぐん向上。
データ分析で
営業戦略策定の
プロになる。

高校時代の私は、問題に直面すると感覚や経験に頼りがちで、非効率的な解決策を選んでいました。でも、大学ではTableau（タブロー／ビジュアル分析プラットフォーム）を活用することで、データの分析・洞察から戦略的なアプローチを導き出す方法を身につけました。将来は営業戦略策定のプロとして活躍したいです。

経済経営学部 マネジメント学科

河上 太陽

出身高校／富山県立富山いずみ高等学校

アイリスオーヤマ株式会社

卓球部の
主将としての
自信と責任。
苦手なことから
逃げない自分へ。

苦手なことから逃げていた。うまくいかないことは環境のせいにしてた。変わるきっかけは卓球部主将になったことです。よいチームをつくるために自分の考えを持って行動する中で、苦手意識があることにも果敢に挑戦する大切さを学びました。主将としての活動が認められて、大学スポーツ協会から表彰されたことも自信になりました。

経済経営学部 マネジメント学科

高村 勇気

出身高校／富山県立富山商業高等学校

株式会社スギノマシン

1年に1つ
必ず資格を取る。
目標達成で
金融リテラシーを
高められた。

他人と比較する必要はない。自分がやりたいことに對して一生懸命であればいい。大学でいろんな経験を積むことでそう思えるようになりました。1年に1つ資格取得（日商簿記、ビジネス会計検定、ファイナンシャルプランナーなど）する目標を達成できたのも、「金融リテラシーを高めたい」という自分のやりたいことを貫けたからだと思います。

経済経営学部 マネジメント学科

平口 夏菜

出身高校／金沢龍谷高等学校

イオンフィナンシャルサービス株式会社

英語を武器に
世界とつながる。
どんな環境でも
自分の可能性を
広げていく力がついた。

語学交流や通訳ボランティアを通じて、英語を武器に世界とつながる力を磨きました。積極的に動くことで視野が広がり、自分の言葉で関わる楽しさを感じました。留学で「自ら動かなければ何も始まらない」ということを実感できたのも大きかったです。いまではどんな環境でも主体的に行動し、自分の可能性を広げていく自信があります。

国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科

元谷 公乃

出身高校／金沢高等学校

アボットジャパン合同会社



自分次第で
選んだ道を
“正解”にできる。
挑戦から逃げない
自分に変身できた。

高校時代は挑戦を避けていました。考え方が変わったのは、中国留学を決意し、新しい環境に飛び込んだからです。留学先で経験を重ねるうちに「選んだ道を正解にするのは自分次第」と気づきました。逃げずに挑みつけた結果、行動が自信に繋がりました。これからも自分で道を切り拓き、どんな環境でも成長しつづけたと思います。

国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科

細田 陸斗

出身高校／福井県立足羽高等学校

重光商事株式会社



パイロットになる
という夢を
あきらめかけていた。
困難を乗り越えた経験が
挑戦する自分をつくった。

幼いころから憧れていたパイロット。だけど「自分じゃなれない」と決めつけていました。大学では留学やG20の通訳ボランティア、災害支援活動を経験し、困難を乗り越えるたびに自分の可能性が広がることを実感しました。挑戦の先にあるのは自信と成長。いま私は航空自衛隊の幹部候補生として夢に向かって新たな一歩を踏み出しています。

国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科

山下 瑠成

出身高校／小松市立高等学校

防衛省航空自衛隊一般幹部候補生 飛行要員



エアライン業界で
世界と人々をつなぎたい。
行動力が私の武器。
いまなら自信を持って
夢を追いかけてられます。

積極的に行動することが苦手だった高校時代。でも、2カ国の留学やG7サミットのボランティアを通じて変わりました。人と関わることで自分の視野がぐんぐん広がる。異文化の中で相手に寄り添い、伝える力を磨いたことで自信も芽生えました。いまは「行動力」が私の武器と言えます。エアライン業界で世界と人々をつなぐ仕事に挑みます。

国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科

瀬戸 芽衣美

出身高校／石川県立金沢西高等学校

株式会社JALスカイ金沢



日本と海外の差。
自己解決力。
それに気づき、
磨けたことが
大きな宝になった。

留学生との交流やカンボジア留学で、私の知らない世界があることを知りました。日本で何不自由なく暮らす私には想像できなかった現実と、海外の人たちが持つ自己解決力。この力は日本人に欠けている能力だなと感じました。大学生活でそれに気づき、その能力を磨けたことは、私自身の大きな力になったと確信しています。

国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科

木田 琢磨

出身高校／石川県立野々市明倫高等学校

会宝産業株式会社

楽観的に挑戦する。
アメリカ留学で得た
ポジティブ思考で、
夢見ていた
客室乗務員に。

「客室乗務員」。その夢を諦めそうになったこともありました。でも、アメリカ留学で変わりました。現地の仲間はみんなポジティブ。「あなたなら大丈夫!」「なんとかなる!」そんな声をたくさんもらって、私自身も変わりました。楽観的に考え、そして挑戦する。いまはそのマインドが私の強みです。

国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科

大塚 佳乃

出身高校／遊学館高等学校

日本航空株式会社

妥協しない。
やるべきことを
100%やり切る力を
多忙な大学生活で
身につけた。

妥協したり先延ばしにする。それが高校時代の自分でした。大学では授業が多く、課題も多い。だけどアルバイトもやると決めた。多忙な大学生活でしたが、やるべきことは100%やろうと決めました。やりきるために大事なのはスケジュール管理と、未来の不確定要素を考慮して柔軟に準備すること。この能力が身についたことは大きな自信です。

国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科

釣谷 冬蒼

出身高校／石川県立金沢北陵高等学校

リコージャパン株式会社

カンボジア、
オーストラリア…
異国で身につけた
積極性と英語力が
私の武器。

カンボジアでのインターンシップ、約1年間のオーストラリア留学、諸外国の学生と英語でディスカッションした模擬国連。これらの活動で培ったのは、行動力と積極性。高校時代は自分の考えを英語で伝えられず悔しい思いをしていたのですが、いまは違う。将来は諸外国との橋渡しになれるグローバルな人材として活躍したいです。

国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科

松岡 向日葵

出身高校／富山国際大学付属高等学校

コマツNTC株式会社

考えすぎるより、
行動することが大切。
北陸大学で学んだのは、
動いたぶんだけ
見える景色が変わること。

何をやっても「これで大丈夫かな?」と不安でした。でも、学園祭実行委員長としてイベント企画を進める中で、考えすぎるより行動することの大切さを知りました。人前で堂々と意見できるようにもなりましたし、仲間と協力しながらチームを導く力も身につきました。4年間で学んだのは、動いたぶんだけ見える景色が変わるということです。

国際コミュニケーション学部 心理社会学科

後川 優志

出身高校／石川県立金沢辰巳丘高等学校

はくさん信用金庫



言葉の力を信じて、
相手の気持ちを引き出す。
ダンスを通じて
人と信頼関係を築く力を
身につけました。

高校時代の私は自分の意見を相手に伝えられませんでした。変わったのは、大学でダンスを通じて仲間とつながってからです。自分の言葉で想いを伝え、相手の気持ちを引き出す力が、いつのまにか身についていました。自ら行動することで、人との信頼関係を築いていく喜びを知ったおかげで、いまはどんな環境でも人とつながれる自信があります。

国際コミュニケーション学部 心理社会学科

西野 莉子

出身高校／金沢高等学校

プロメディカル株式会社



人に寄り添える
人になりたい。
学園祭実行委員会の
活動を通じて、
そんな自分に変われた。

人見知りで消極的。初対面の人には無愛想(笑)。そんな自分が変化したのは、学園祭実行委員会の活動で多くの人と関わってからです。ずっと「人に寄り添える人になりたい」と思っていたのですが、家族とのふれあいの中でとても感謝され、自分の中で変化を感じました。委員会の活動で積極性や傾聴力が養われたことが大きかったです。

国際コミュニケーション学部 心理社会学科

南 笑加

出身高校／星稜高等学校

明祥株式会社



人の意見に
流されていた自分が、
グループを引っばる。
私にも、やれる。
私でも、成長できる。

入学前「人の意見に流されるのが私の課題」と感じていました。課題克服の契機になったのは「PBL※入門」という授業。心理社会学科と国際コミュニケーション学科のグループ作業でした。そこで率先して行動すると、グループの一体感が生まれました。自分の積極性がグループ全体を動かし、自身の成長にもつながる。とても大事なことに気づけました。

※PBLとは、学生が地域と協働し社会課題に取り組む学習科目。

国際コミュニケーション学部 心理社会学科

増谷 渚

出身高校／石川県立鹿西高等学校

若松梱包運輸倉庫株式会社



責任を負うのが
苦手だった私が
学生団体を発足し、
子ども食堂の
リーダーになった。

入学前の私は、責任を負うことが苦手でした。団体活動のリーダーなんてもってのほか。そんな私が学生団体を発足。子ども食堂を主とする活動で人を支えることに大きなやりがいを感じて、自分自身が変わりました。団体運営で身につけた財産は、相手の話から意図を汲みとる「傾聴力」と、周りを巻き込みながら実行する「行動力」です。

国際コミュニケーション学部 心理社会学科

緑川 こころ

出身高校／石川県立金沢二水高等学校

国内大手金融機関

努力を続けることで、
視界が開けた。
「やればできる」
その感覚が芽生えて
自分は変わった。

勉強に苦手意識があり、自信がなかった高校時代。大学に入ってから変わりました。先生や仲間といっしょに努力するうちに「やればできる」という感覚が芽生えてきたんです。積み重ねた努力が、国家試験の合格という結果につながりました。受け身じゃダメ。自ら考え、動く臨床工学技士になりたい。医療の現場で信頼される存在をめざします。

医療保健学部 医療技術学科
江口 真士
出身高校／星稜高等学校

公立羽咋病院

もっと挑戦したい。
もっと知識を深めたい。
医療は支え合いで
成り立つんだと知って、
学びが楽しくなった。

入学当初は学力に自信が持てず、不安でした。でも学びを続けるうちに、知識が増えて、徐々に自信へと変わっていきました。友人と励まし合い、先生たちに支えられながら学ぶ中で、「医療は支え合いで成り立つ」ことを知りました。いまは学ぶことが楽しいし、もっと知識を深めたい。これからも挑戦を続け、未来の医療を支える力を身につけていきたいです。

医療保健学部 医療技術学科
辻 このり
出身高校／小松大谷高等学校

金沢大学附属病院

知らない世界に
飛び込む勇気が、
未来の
選択肢を
広げてくれる。

医療従事者になるイメージが持てず、不安だった高校時代。でも、大学で多くの経験を積むうちに「社会の中で自分にできること」を考えるようになりました。臨床経験の長い教員から学び、知識が現場でどう活かされるのかを実感。挑戦することで、新しい世界が広がる。臨床検査技師として、患者さんを支えながら、常に探究心を持ち続ける医療従事者を目指します。

医療保健学部 医療技術学科
大場 泰晟
出身高校／金沢高等学校

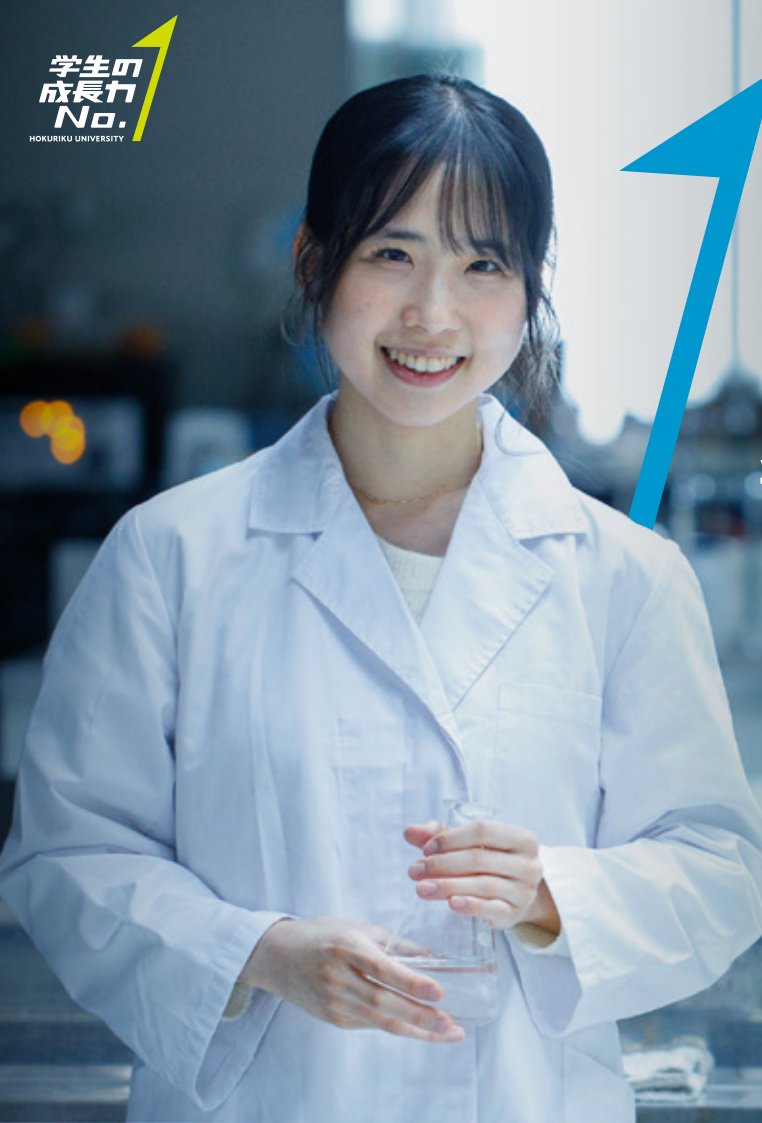
金沢医科大学病院

大学の授業や実習で
臨床工学技士として
めざすべき姿が見えた。
ずっと学びつづける
覚悟も決まった。

入学当初は「本当に医療の道に進めるのか」と不安でした。大学の授業や実習を通して、生命維持装置の管理や心電図の読解など、学びを深めるほどに責任の重さを感じました。だからこそ、知識を深め、医師と議論しながら最適な医療を提供できる臨床工学技士をめざしたいと強く思いました。チーム医療の一員として、医療機器を適切に管理し、患者さんを支える。ずっと学びつづけるプロでいたいです。

医療保健学部 医療技術学科
大村 悠真
出身高校／石川県立金沢泉丘高等学校

東京大学医学部附属病院



**ポジティブ思考は
友人や先生のおかげ。
薬剤師として
人と向き合う力が
養われてきた。**

入学前の私はネガティブ思考。自分なんて…と思ってばかり。でも、大学にはポジティブな友人や先生が多く、積極的にコミュニケーションをとることで自身をコントロールする力がつきました。たくさんの人と関わることで、互いに助け合い、共感し合う大切さを学べたのも大きいです。この経験が、薬剤師として患者さんと向き合う力につながっていると感じています。

薬学部 薬学科
山口 ほのか
出身高校／石川県立金沢二水高等学校

株式会社クスリのアオキ



**薬剤師は一人で
完結する仕事じゃない。
多くの人と支え合い、
壁を乗り越えた経験を
活かしたい。**

ゼミ活動を通じて、チームで支え合う大切さを実感しました。わからないことを教え合い、一人では乗り越えられなかった壁も、仲間とともに乗り越えました。この経験から、「薬剤師も一人で完結する仕事ではない」と気づきました。その経験を活かすためにも、地域の健康を支える薬剤師として、学校薬剤師や健康イベントにも積極的に関わっていききたいです。

薬学部 薬学科
上田 菜々子
出身高校／石川県立金沢泉丘高等学校

ウエルシア薬局株式会社



**薬を渡す人じゃない。
治療を支える存在。
薬剤師になるという
幼いころの夢を
叶えました。**

薬剤師になりたいと思ったのは幼い頃。でも、計画的に進めるのが苦手で、試験前になって焦ることも多かったんです。薬学部の学びの中で、スケジュールを立て、優先順位をつける力を身につけました。実務実習では薬剤師が「薬を渡す人」ではなく「治療を支える存在」だと実感しました。知識だけでなく、対話力や判断力を磨き、患者さんに寄り添う薬剤師をめざします。

薬学部 薬学科
森 優未乃
出身高校／石川県立小松明峰高等学校

公立松任石川中央病院



**「どう伝えるか」で、
患者さんの心も変わる。
初の服薬指導で
薬剤師としての
言葉の重要性を知った。**

実務実習で初めて服薬指導をしたとき、「伝えることの難しさ」を痛感しました。授業で学んだ薬の知識をそのまま伝えても、患者さんには伝わらない。相手に合わせた言葉選びや説明の仕方が大切だと気づきました。おかげで「知識を伝える」のではなく「相手に伝わる伝え方」を考える力を身につけました。信頼される薬剤師をめざして言葉を磨き続けます。

薬学部 薬学科
松林 陽菜
出身高校／富山県立大門高等学校

株式会社クスリのアオキ



学生の成長力No.1大学へ。

HOKURIKU UNIVERSITY



21世紀を生き抜くチカラ。

北陸大学

1 経済経営学部 経済学科 1 経済経営学部 マネジメント学科

1 国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科 1 国際コミュニケーション学部 心理社会学科

1 医療保健学部 理学療法学科 1 医療保健学部 医療技術学科 1 薬学部 薬学科

1 大学院 医療保健学研究科 医療保健学専攻(2025年4月開設)

太陽が丘キャンパス 石川県金沢市太陽が丘1丁目1番地

薬学キャンパス 石川県金沢市金川町ホ3